

### 第3回審議会意見と第2次計画への反映方針について

	審議会意見	第2次計画への反映方針
観光振興の効果検証指標について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○SA・PAでの観光案内等の観光誘客活動の効果が検証されていない。効果的な働きかけができていないのかわからない。</li> <li>○甲賀市の取り組みの有効性を検証するため、観光スポットごとの客層等、ターゲットを絞ったマーケティングの資料になる情報収集の仕組みが必要。</li> <li>○振興計画そのものの問題として、評価のための指標がない。金銭ベースで評価できるものがあると良い。</li> <li>○観光調査で複数個所に訪問してそれぞれでカウントされているような状況ではマーケティングの基礎資料にならない。計量的に見ることのできる指標作りが必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観光誘客の取り組みの有効性を検証するための調査やデータ収集について、マーケティングの必要性を認めている。現段階ではマーケティングの実施主体、施策の企画立案、実施主体の決定等、甲賀市版観光DMOの構築に向けた記載を検討する。(体系Ⅲ-4)</li> <li>○観光入込調査については従前より、観光客が重複するような形であったが、今までの統計調査との整合がとれなくなるため、今後は述べ人数と実人数をマーケティングするなど、有効と考えられる指標について甲賀市版観光DMOで検討することとしたい。(体系Ⅱ-3)</li> </ul>
マーケティング戦略の策定とその主体について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○それぞれの観光資源のターゲットを誰にするのかを明確にすべきではないか。</li> <li>○計画期間が12年間の振興計画でターゲットを方向づけてしまうのではなく、マーケティング戦略を決定し推進する体制づくりとしてのDMOが必要であり、それができる仕組みづくりが次の振興計画の課題。</li> <li>○他では町役場の係長が町長の支援のもとに頑張ってきた例があるが今の市役所の体制ではなかなかできないと思う。みんなが知恵を出して解決していく必要があるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ターゲットは社会情勢、経済情勢により目まぐるしく変化するため、マーケティング戦略を決定し推進する仕組みづくり(甲賀市版観光DMO)について、第2次計画で示すよう検討する。(体系Ⅲ-4)</li> <li>○地域のプロデュース、地域のマネジメントのできる人材育成について、甲賀版DMOの構築に向けた課題の一つとして検討する。(A)(体系Ⅱ-2, Ⅲ-4)</li> </ul>
市民の意識向上について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○甲賀市の観光や歴史・文化について、市民が答えられるような市民教育が必要。関心のある一部の市民だけではなく広く市民の意識を喚起することが求められる。</li> <li>○観光やまちづくりに関わる人と学校教員をはじめとする教育関係者との橋渡し等、市全体での取組として位置づけていくことが必要</li> <li>○観光振興とは産業振興であるが、経済的な分野のみの取組だけではなく、住民の誇りやまちづくりという観点からの取</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観光振興が、地域の産業振興、働く場の創出等を通じて甲賀市の人口問題解決の一つの手段として取り組まれていることについて、市民へのさらなる周知を進めるため、まちづくり講座の開催等を検討する。(体系Ⅲ-1)</li> <li>○学びの場を通じて甲賀市の歴史・文化や観光資源について市民が学び、誇りを持てるような取り組みのさらなる推進を図ることを検討する。(体系Ⅲ-1, Ⅲ-2)</li> </ul>

	<p>組も同様に必要である。</p> <p>○地域主体形成の場づくりといっても地域に意識がないののでできるわけがない。地域づくりは人づくりであり、その部分に腰を据えて取り組むべきだと考える。</p>	<p>○地域のプロデュース、地域のマネジメントのできる人材育成について、甲賀市版観光DMOの構築に向けた課題の一つとして検討する。(Aと同じ)(体系Ⅱ-2,Ⅲ-4)</p>
観光資源の活用について	<p>○観光誘客のためには、食事や移動のコースを含めた観光商品の開発が必要である。観光コースの提案などは民間で取り組み、行政はそのバックアップを行うような体制がよい。</p> <p>○資源は多いが、誰にでも知られている「忍者」を使わない手はない。忍術屋敷と忍術村くらいしか出てこない状況では1日遊べない。</p> <p>○忍者についてはもう少し絞り込んで伊賀との差別化を図る必要がある。追いつくのは難しい。うまく利用させてもらう手だてが必要ではないか。</p> <p>○歴史的な観点とキャラクター性を出して遊びとして取り組むことの両建てでできないか。</p> <p>○信楽は市内では観光の先進地であり、多くの集客がある。これを活用しない手はない。</p>	<p>○具体的な観光商品の開発や絞り込みなどは民間ベースで取り組むべきであり、その全体的な司令塔として甲賀市版観光DMOの体制づくりを次期計画に反映できるよう検討する。(体系Ⅲ-4)</p> <p>○民間の事業展開をバックアップする行政の役割について、甲賀市版観光DMOと連携して取り組むことを記載する。(体系Ⅰ-2,Ⅱ-1)</p> <p>○伊賀市との「忍者」活用にかかる差別化、もしくは事業としての協働実施も具体には必要ではある。振興計画には、日本忍者協議会等の組織化もされていることから、差別化を優先するのではなく広域連携の実施について次期計画に反映する。(体系Ⅰ-3,Ⅲ-3)</p> <p>○市内観光施設のルート化、見える化を図り顧客が選択しやすい基盤を構築するため次期計画に反映できるよう検討する。(体系Ⅰ-1,Ⅱ-1)</p>
観光拠点の整備について	<p>○バスが入れて大口の食事客を受け入れられる店が信楽にしかない。拠点施設の整備については毎年要望している。</p> <p>○道の駅が一つしかない。交通の要所に大きな施設があり、忍者関係の施設も併設されていれば集客できるのではないか。</p> <p>○土山の道の駅は近畿で最初に出来たものだが、高速道路ができて客入りが落ち込んでいる。甲賀市ならではの食べ物や土産物として紹介できるものが乏しい。</p>	<p>○新しい拠点整備や道の駅あいの土山の改修等については、財政負担、費用対効果、実施主体の決定等、今後も検討をすすめます。</p> <p>○既存の拠点施設の魅力向上や甲賀市ならではの食べ物、土産物や忍者関連商品の開発は、基本的に民間で行われるべきものであるが、行政としての支援については今後の審議会の議論も踏まえて検討する。(体系Ⅰ-1,Ⅰ-3)</p>
ゴルフ場利用者について	<p>○ゴルフ場利用者について現行計画では触れられていない。観光入込客数に占める比率も高く、経済効果も生んでいる分野であり、観光に位置づけることを検討してもよいのではないか。</p> <p>○ゴルファー自体は減少傾向で、ゴルフ振興ではうまくいかないかもしれないが、それならば観光客としてカウントする必要はないのではないか。</p>	<p>○ゴルフ場利用者は他府県からの来客も見込め、今後設定するマーケット指標や施策によっては、市内への誘客の可能性があるので、今後の取り組みの可能性について検討する。(体系Ⅱ-1)</p>

若年世代について	○若い人が遊べるところがない。市内の若い人が観光についてどう思っているか調査できると良いと思う。	○具体的に若年者向け調査の実施を計画に掲載することは難しいが、観光戦略策定と効果検証に必要なデータ収集の一環として、検討する。(体系Ⅱ－３)
観光客の安全確保について	○災害時等における外国人観光客の安全確保や危機管理について次期計画に記載すべき。	○危機管理部局と連携した安全確保や避難時の情報提供について、次期計画に反映するよう検討する。(体系Ⅰ－３)